

〔農業の多面的機能を活かした都民との共生〕
体験栽培に適したサツマイモの品種

馬場 隆
(経営部)

【要 約】体験栽培に適する品種を選定するため、既存の品種・系統の中で特性を調査した結果、‘高系 14 号’は収量、大きさ、食味等の点で優れていた。

【目 的】

都民や保育園を対象にしたサツマイモ体験栽培が都内で行われている。既存の品種・系統の特性を調査し、体験栽培に適した品種を選定する。また、都内の一部で、加工薯として栽培・直売されている有色薯は体験学習の教材として有望である。最近育成された品種・系統から優良品種を選定すると共に、今後の農家対応、都民対応の資料とする。

【方 法】

- 1) 栽培方法：場内沖積畑において、5 品種 12 系統を供試し、黒マルチ栽培で行った。2003 年 6 月 9 日植付、12 月 4・5 日掘取である。栽植密度は 110 cm×30 cm (303 株/a)、施肥量は N0.1 kg, P0.5 kg, K0.7 kg/a で、前作はライ麦である。
- 2) 調査方法：調査個体数は 5 株である。収量調査は 80 g 以上の薯について行い、薯長は M サイズの平均で表した。薯の大きさの分布については、6 段階に区分し、その重量で表した。

【成果の概要】

- 1) 収量は‘九州 138 号’が 600 kg/a を超え最も高く、次いで‘高系 14 号’、そして‘関東 114 号’‘ベニアズマ’が続いた。オレンジ薯では‘ジェイレット’が高く、紫薯では‘九州 137 号’‘九州 139 号’高かった (図 1)。
- 2) 薯長は長過ぎると掘り取り難く、薯も折れ易い。‘春こがね’は長く、‘九州 130 号’‘関東 114 号’‘関東 121 号’‘谷系 7 号’は短かった。オレンジ薯では‘サニーレット’が長く、‘ジェイレット’は短かった。紫薯では‘九州 139 号’が長く、‘九州 137 号’が短かった (図 2)。
- 3) 薯の大きさは、‘関東 115 号’‘春こがね’‘九州 127 号’‘九州 130 号’‘九州 133 号’は M サイズが多く、‘高系 14 号’は L サイズがピークとなった。有色薯は加工して利用する場合が多く、大きなサイズでも問題はない。オレンジ薯では‘ジェイレット’は 3 L が多く、‘サニーレット’は S, M が多かった。紫薯では‘九州 137 号’‘九州 139 号’は LL が多かった (図 3)。
- 4) 食味は‘ベニアズマ’‘高系 14 号’‘春こがね’‘関東 114 号’‘関東 115 号’が優れた (表 1)。
- 5) ‘高系 14 号’は収量が安定し、適度な長さで大きさで、且つ良食味であるため、体験栽培用として適していると考えられる。九州 138 号’は多収だが、薯が大きくなり過ぎ、食味も劣るため、体験栽培用としては不向きである。また、‘春こがね’は良食味だが、薯が長く折れ易く、低収量のため適さない。オレンジ薯では‘ジェイレット’が、紫薯では‘九州 137 号’が良好な結果を示した。

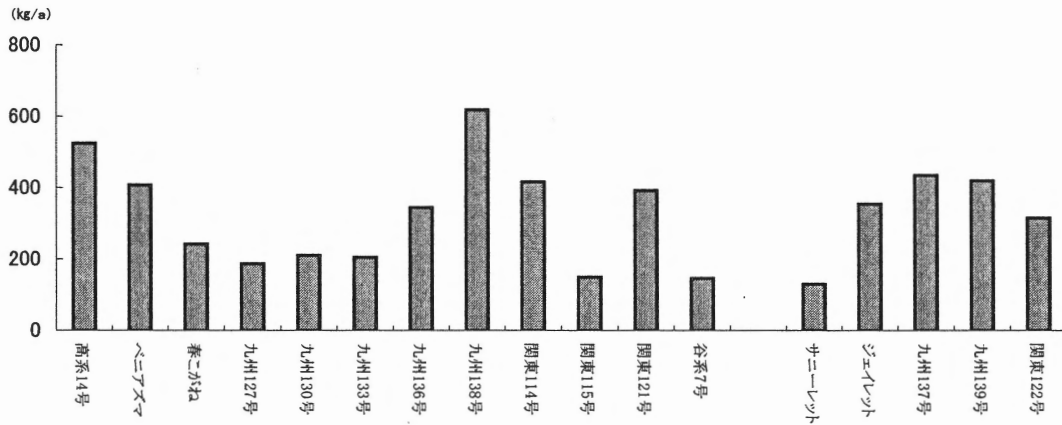


図1 品種別収量

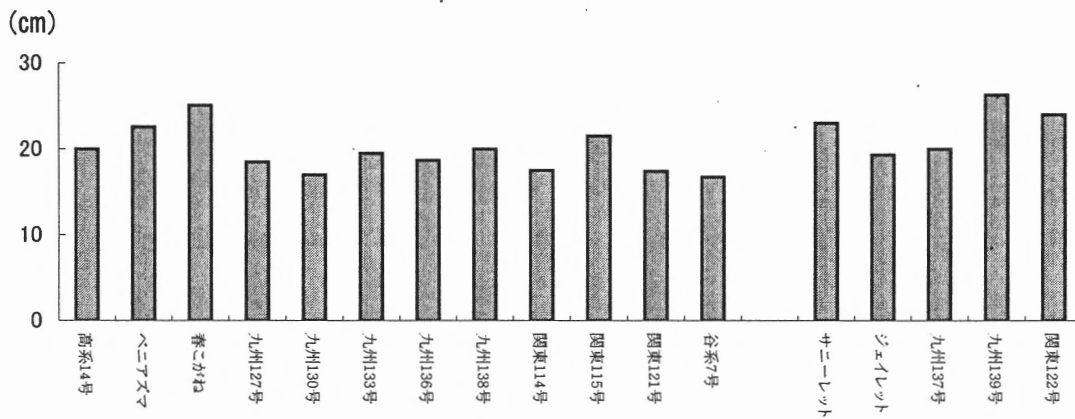


図2 Mサイズの諸長



図3 諸の大きさの分布

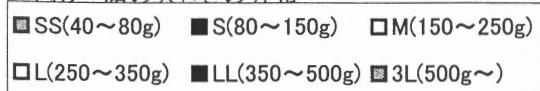


表1 諸の皮色・肉色

	皮色	肉色	食味
高系14号	赤紫	淡黄	中中
ベニアズマ	赤紫	黄白	中上
春こがね	紫	黄白	中中
九州127号	赤紫	淡黄白	下上
九州130号	赤紫	淡黄白	下上
九州133号	赤紫	黄白	中下
九州136号	紫	黄白	下上
九州138号	赤	淡黄白	下上
関東114号	赤紫	黄白	中中
関東115号	赤紫	黄白	中中
関東121号	赤紫	黄白	下上
谷系7号	赤	黄白	下中
サニーレット	赤紫	橙	—
ジェイレット	赤紫	橙	—
九州137号	白	淡紫	—
九州139号	淡紫	淡紫	—
関東122号	濃紫	濃紫	—